

札幌市路面電車ループ化事業について

札幌市まちづくり政策局総合交通計画部都市交通課

1. はじめに

平成27年12月、札幌市路面電車は西4丁目～すすきの停留場間約400mを路線延長し、環状化（ループ化）した。ループ化前の路線延長は約8.5km、通勤・通学などの重要な足として1日約2万人が利用していた。

路面電車は、明治より本市発展に貢献し、市域拡大に伴い順次路線を延伸。昭和39年には、路線延長が25kmにまで達したが、モータリゼーションの進展などにより、路線は順次廃止され、存廃議論も繰り返された。市民議論の後、人や環境にやさしい路面電車の特性などが見直され、札幌市は平成17年に存続を決定。路面電車のまちづくりへの活用と経営基盤強化を図るために、路線ループ化を実施した。

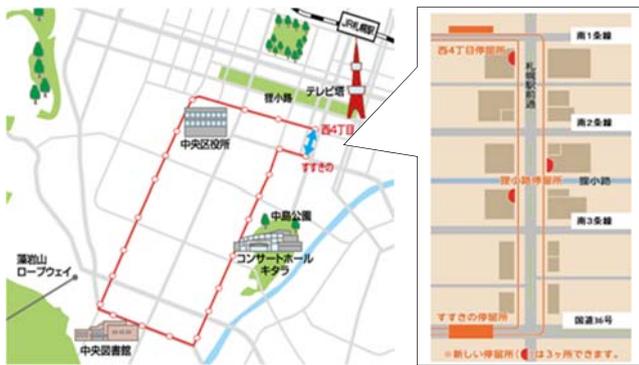


図1 ループ化整備位置図

2. ループ化整備概要

ループ化は、交通機関としての利便性向上に加え、路面電車を魅力とにぎわいのある都心のまちづくりへ活用し、沿線に新たなまちの魅力を形成するよう進めた。

(1) 札幌駅前通でのループ化

各種計画において「にぎわいの軸」とされる札幌駅前通で、路線を延長した。駅前通は以前から歩行者天国や地域のイベントが数多く行われているシンボリストリートであり、西4丁目停留場が位置する大通地区は、古くから商業地区として発展し、百貨店やファッションビルが立ち並び市内有数の商業ゾーンである。ループ化により、回遊性を向上させ、大通地区のにぎわいにつながると考えている。

(2) サイドリザーベーション方式

本整備の大きな特徴として、軌道を両側歩道寄りに敷設する「サイドリザーベーション方式」が挙げられる。これにより、新しい停留場では誰もが気軽に歩道から路面電車へ乗り降りすることができる。これからの超高齢社会を見据え、多くの方が安心して利用できるよう整備した。

(3) 狸小路停留場

ループ化区間の狸小路付近に、狸小路停留場を新設した。停留場には、利用者の利便性向上を図るため、運行情報モニターを導入し、車両位置情報や利用案内を表示している。さらに沿線・観光情報も表示し、歩道上の停留場に交流空間機能を持たせた。観光客を含む多くの方々でにぎわう商店街に近接することから、利便性向上とまちづくりへの活用により、まちのにぎわいをさらに促進させていきたい。

3. 官民連携によるまちづくりへの活用

駅前通の狸小路停留場に近接する歩道上に、ボックス型店舗とオープンカフェデッキからなる「大通すわろうテラス」が設置されている。これは、官民連携の取組みとして都市再生整備推進法人である札幌大通まちづくり株式会社が設置したものである。これまで北海道産原料を使ったスイーツショップや歩行者天国イベントと連携したカフェなどが出店しており、ループ化により期待される都心のにぎわい創出効果と連動し、通りににぎわいをもたらしている。



写真1 札幌駅前通（左）と大通すわろうテラス（右）

4. おわりに

ループ化開業後、路面電車利用者数は、一日当たり対前年比約2,000人増加で推移している。開業後実施のアンケートでは、『路面電車の利用頻度が増えた』、『外出機会が増加した』との声もあり、利便性向上の効果が表れてきている。さらに、都心商業者へ実施したヒアリングでは、「大通公園方向へ抜けて路面電車が通過している風景が良い。」「路面電車が店舗の正面を通過するため、路面店のショールームとしての価値が向上した。」との声もあった。多くの来街者でにぎわう札幌駅前通の歩道沿いを路面電車が悠々と走る光景が、札幌独自の風景として、札幌市の新たな魅力・観光資源になることを期待している。

本事業は、これまでの市民議論や、関係機関・地域の方々の理解と協力のもと、無事に開業を迎えることができた。今後も路面電車とまちが連動し、札幌市がより一層魅力あるまちになるよう取り組んでまいりたい。